

令和3年度 第1回 新見市総合教育会議 議事録

1 日 時 : 令和3年10月13日(水)
午後3時開会 午後4時閉会

2 場 所 : 新見市役所南庁舎3階 会議室3A

3 出席構成員

市長	戎	齊
教育長	正 村 政 則	
教育長職務代理者	松 井 健 一	
教育委員	溝 尾 妙 子	
教育委員	長谷川	綾
教育委員	三 上 ゆ み	

4 説明のために出席した職員

教育部長	小 林	保
教育部次長	田 中 隆 博	
総合政策課長	古 家 孝 之	
生涯学習課長	名 越 伸 明	
学校教育課長	黒 川 一豊海	
総合政策課係長	徳 山 淳 一	
教育総務課係長	真 壁 恒 子	
総合政策課主事	島 岡 夏 輝	

1 開 会

2 市長挨拶

3 議 事

「小規模化する小中学校の方向性について」

戎市長 本日の会議のテーマは、「小規模化する小中学校の方向性について」です。

まずは事務局から、本市の小中学校の現状について説明願います。

事務局 現在市内には小学校17校、中学校5校ございまして、全体的に将来、子どもの数が減少していくことが推測される状況でございます。

特に、井倉小学校、草間台小学校、塩城小学校、千屋小学校、萬歳小学校、矢神小学校の児童数の減少が顕著な状況でございます。

今後、全校児童数が1桁台になるというような状況も見受けられます。

なお、井倉小学校については、PTAの中で新見南小学校への統合が既に検討されており、令和5年4月をもって統合を行っていくという方向性が地域の方から示されております。今後、教育委員会として協議・検討させていただきたいというところでございます。

戎市長 事務局から本市の小中学校の現状について説明がございました。子どもの数に目を向けますと、現在本市には17の小学校がありますけれども、そのうち12校において全校児童数が60人以下ということで、1学年に児童が10人もいないという状況でございます。

地域の人や保護者の方々の中には、小規模校であることに対して、不満やデメリットを感じている方もおられるのではないかと懸念しておりますが、反対に小規模校ゆえのメリットもあると考えております。

小規模校のメリット・デメリットについて、皆様はどのようにお考えでしょうか。

三上委員 先日、萬歳小学校も統廃合に向けて動いているということを聞きました。児童が少なくなると、先生も少なくなり、授業でできることも限られてくるので、人数が増えることによってメリットもでてくるかと思えます。

しかし、交通の面を心配している保護者もいます。統廃合をした場合、子どもによっては朝早くに家を出ないといけない場合があるので、できるだけ子どもの負担が少ない方向性になってくれればと思います。

長谷川委員 少人数クラスのメリットとしては、先生が子ども一人ひとりの勉強の進行具合を把握しやすかったり、個別指導が細やかにできたり等が挙げられるかと思えます。あとは地域の方が子どもの顔や名前を把握しやす

いですとか、年上年下関係なく関わりが持てるというメリットもあるか
と思います。地域の人と深く交流することで、新見市が力を入れて取り
組んでいる、ふるさと教育への理解も深まるのではないかと思います。

また、複式学級の場合は、通常一度だけで終わってしまう学習内容も、
翌年、再度学ぶことができるというのはメリットであると聞きました。

反対にデメリットとしては、クラス替えがないことで、人間関係をい
ったんリセットできなかったり、運動や勉強の面で競争機会が少なかつ
たりということが挙げられるかと思います。

松井委員

学校が小規模化することで、教職員にも影響がでてくるように思いま
す。担当する児童生徒について、少人数であることは、一人ひとりの把
握であるとか、指導の行き届きやすさ、関係構築という点では、非常に
メリットであると思います。

しかし、教える技術を延ばしていくことや互いに研究しあっていくと
いうような教員組織をつくっていくという点では、小規模校は先生にと
ってデメリットとなる面もあるのかなと思います。

例えば、同じ学年に複数の先生がいれば、お互いに授業を見学したり、
教材を交換しあったりして、力量を高めるということができると思いま
す。小規模校ではそういった機会をどのように保障していくのかとい
うことを考えていかないといけないと思います。

また複数の先生がいることで、児童生徒の授業に対する理解が高まる
ということもあるかと思います。人数の多い学校であれば、自分のクラ
スで行った授業を別のクラスでもやってみることで指導方法を振り返
ることができます。しかし小規模校では、1人で複数の学年を持ちます
と、教材研究も膨大なものになりますので、授業方法を振り返って他の
クラスで応用をするということができにくく、そういう意味では、教員
の力量に多少影響があるのかなと思います。

溝尾委員

小規模校だと、先生が目が行き届いたり、授業での発言機会がたくさ
ん回ってきたりすることで、子どもが主体的に授業を受けられるのでは
ないかと思います。また、同学年の人数が少ないと他の学年との交流が
増えて、たくさんの人と交流ができるのもメリットかと思います。こう
いった小規模校のメリットを積極的に発信していくのも大切なのでは
ないかと考えています。

デメリットとしては、多様性を知る機会が少なくなるといいますので、
そこを補える工夫をすることが必要だと考えています。

正村教育長

どんな状況でもメリット・デメリットはあります。デメリットをどう
解消するか、メリットをどう活かすか、行政としてどのような支援がで
きるのかということを考えていくことが大切なのではないかと思いま
す。

また、小規模校のことを考えた際に、子どものことに目を向けがちで

すけども、教職員のことについても考えていかなければならないと思います。教職員の人数が多ければ、互いに切磋琢磨することで授業の質の向上にもつながっていきます。子どもにとってのメリット・デメリット、教職員にとってのメリット・デメリットがでてくるかと思います。

また、都会の方では、複式学級を知らない方もおられます。我々から見ると複式学級にデメリットを感じることも多いかもしれませんが、複式学級を知らない方から見ると、少ない人数で工夫して授業ができていて、先ほど皆様が言われたようなメリットをより強く感じる場合もあると思いますので、どの立場から見るかによって、メリット・デメリットは変わってくるかと思います。

デメリットをどのようにメリットにしていくかということを考えることが教職員や行政の役割ではないかと考えます。今の現状をポジティブに考えていくことが大切なのではないかと思います。

戎市長

教育長が言われたように、立場によってメリット・デメリットは異なってくると思います。複式学級は2年間授業を繰り返すことができますし、高学年の子は低学年の子に負けてはならないという意識を持ち、自己研鑽につながるのではないかと考えます。私の子どもも小学校のうちに複式学級を経験したことで、財産になったのではないかと考えます。複式学級は先生方にとって大変であろうと思いますが、先生方の自己研鑽につながるのではないかと考えます。

行政としましても、メリットとなる部分については、より一層活かしていくような支援をしていく必要がありますし、デメリットとなる部分については、解消していかなければならないと考えております。

特に行政としましては、デメリットとなる部分の解消が課題になってくるのではないかと考えております。

デメリットの解消方法について、皆様どのようにお考えでしょうか。

松井委員

私としましては、新見市が取り組んでいる小中連携や小中一貫教育をさらに進めていくことも大切なのではないかと考えております。

現在、中学校区単位で子どもの生活を見守っていこうという動きができております。その中で、PTAの代表者や先生方、地域の児童委員などが加わって、定期的に会議をしております。このような、中学校区を単位として協力して子どもを育てていくという取組は非常に大切なのではないかと思っております。教育の面でも、現在幼稚園等では統一カリキュラムで幼児教育がなされ、それを受けて小学校ではスタートカリキュラムが実施されていますが、そういった一貫した段階を経ていくことが大切だと感じております。また、大佐地区で行われたような、中学校の先生が小学校で授業を行うといった先生方の交流も広がっていけば良いのではないかと考えます。小学校の先生、中学校の先生それぞれが得意な分野で教育に関わっていく体制づくりを進めていくのが良いと思っております。

さらに小学校・中学校の先生方が我が校ではなく、我が校区という意識で協力しあっていくということが大切なのではないかと思います。例えば、研修会やケース会議を一緒に行い、お互いに校区の子どもに対して理解を深めていくことが大切であると思います。

三上委員

小規模校だと、子ども達が大勢の人の前で発表するといった経験が少ないので、そういった場面に直面した時に、自信を持ってないと聞いたことがあります。

新見市は全校にiPadを導入しているので、そういったものを使えば、学校同士で授業や発表ができ、他校とつながりが持てると思いますので、例えば姉妹校みたいなグループを作って、少ない人数でも一緒にできるような仕組みができれば良いなと思います。

長谷川委員

iPad等を使ってリモートで合同授業を行っていくことで、多様性に触れる機会につながると思います。また、定期的に隣接校などと交流や行事をしていく必要もあるのかなと思いました。部活動も合同でしてほしいという保護者の声もありますが、その一方で、送迎が難しいといった問題もあるので、そこは考えていかなければならないと思います。市長が言われたように、メリットとなる部分についてはさらに延ばして、すべての児童の基礎学力を保障するなど、具体的な魅力を伝えていけば小規模校でも保護者の理解が得られるのではないかと思います。

また、クラス替えが無いことによって信頼関係を築くことも容易になり、人間関係のトラブルが起こりにくいのではないかと考えていますが、子ども達の心の変化にいち早く気づいてあげることが大切なのではないかと思います。

溝尾委員

他の学校としっかり交流して多様な人と触れ合える機会を持つことが良いと思います。対面の方が良いとは思いますが、オンライン等につながりながらも十分できるかと思います。

また、中学生になると同じ小学校区の子とも一緒にになりますので、小さい頃から一貫して交流ができていれば良いなと思いました。

正村教育長

幼・小・中としっかり連携していくことが小規模のメリットになると思います。たくさんの子どもの子がいたら交流が難しいと思いますが、本市は小規模だからこそ小学校同士、小学校と中学校等の交流ができるのであって、それが小規模のメリットではないかと思います。また、教育面でも、統一カリキュラム等一貫した教育も進めてきました。このようなデメリットをメリットに活かそうという取組も今後さらに続けていかなければなりません。

また修学旅行などの行事における交流についても、中学校区単位で始めておりますが、iPad等を使用したリモートでの合同授業や対面での合同授業も進めていかなければならないと思います。リモート授業と

対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業というのも既にございますので、そういったものも本市として進めていければ良いのかなと思います。

戎市長

皆様から小規模校のメリット・デメリットをお伺いし、デメリットの解消方法についてもご意見をいただきました。その中で iPad 等 ICT の活用ですとか、小中一貫の取組ですとか、さまざまなご意見がありました。私としましては、地域によってさまざまな選択肢があっただろうのかなと思います。小規模校としての存続、統廃合、小中一貫校など、各地域の環境に応じた小規模校に対する考え方があって良いのではないかと考えています。皆様はどう思われますでしょうか。

松井委員

小規模校ですと、先生方が自分の授業を振り返ったり、教材研究を深めていったりすることができにくいという部分を行政として支援していく必要があるかと思えます。

ICT 教育については、新見市は進んでいるわけでございますけれども、せっかくそういうネットワークが張り巡らされているわけですから、例えば、教材等を一か所に集めておくセンターのようなものを設置して、そこにさまざまな先生の意見を追加して蓄積していったり、取り出したりして、活用していくようなサイクルができれば良いのではないかと思います。そうすれば若い先生が先輩の知識を学ぶことができますので、そのようなシステムができれば小規模校のデメリットをカバーしていくことができるのではないかと思います。自分1人で抱え込むのではなく、オープンにしていく、それが小規模化していく新見市の教育を支える上で、重要な意識改革になっていくのではないかと思います。

授業研究についても、現場で見合うことができなければ、ビデオで撮って、それを他の先生に公開し、意見をいただくというような工夫もできるのではないかと思います。ICT を利用した授業研究にも積極的に踏み出していけば、現在デメリットとなっている部分もカバーしていけるのではないかと思います。新見市のネットワークを利用した学校教育をさらに進めていけたらと思います。

長谷川委員

地域によっていろいろな意見があると思いますし、地域によって教育格差があっただけではないので、地域ごとに選択肢があるということは良いことだと思います。一方で、地域に学校がなくなること、子育て世帯が減ってしまうこと等を心配している場合には、公民館等で教育経験者の方が学習支援をするなど、子どもの声を絶さないようにすることで地域の方の理解を得られるかもしれません。

また、少人数の地域については、制服やランドセルに趣向を凝らすなどして、統合する学校もしない学校もそれぞれに魅力ある学校づくりをしていくのが良いと思います。

小規模校のメリット・デメリットは表裏一体の部分がありますので、

デメリットをメリットにしていけるような努力をしていくことが大切なのではないかと思います。

三上委員

地域の人達は先行きが不安で、保護者の方は人数が多くても少なくても子どもに同じような教育を受けさせたいと思われているので、教育格差がないように、ICTや対面等を組み合わせたハイブリッド型の教育が進んでいけば新見市らしい教育につながるのではないかと思います。

溝尾委員

小規模校にもたくさんのメリットがあるということは感じております。ただ不安を感じている保護者の方もおられるので、メリットの部分もしっかり発信していくことが大切なのではないかと思います。地域の人と保護者とで意見が違ったり、地域ごとにも意見が異なると思いますので、小規模校のメリット・デメリットを正しく発信していけたらなと思います。

正村教育長

今、教育委員会や先生方が知恵を出し合って、ICTの活用などに全力で取り組んでおります。岡山県からも本市のICTは一目置かれております。そういった意味でも、これは本市の魅力であると考えております。

また、皆様が言われたように地域ごとの選択が必要だと思います。何度も話し合いを重ねながら、その地域の魅力づくりをしていく必要があると思います。

また教育の機会均等については、条件は違うかもしれませんが最低限のレベルは保障していかなければなりません。そうした中で、学校や地域の魅力をどのように出していくかといったことを考えるのが大切なのではないかと思います。地域や行政が手を取ってメリットを活かし、デメリットを解消していくことが必要だと思います。他県や他市から新見市って良いなと思ってもらえるような教育を進めていければなと思います。

戒市長

たくさんの貴重なご意見ありがとうございます。今後子どもの数が減少していくということは紛れもない事実でございます。小規模校が増えていく中で、本市としてデメリットをメリットにしていき、魅力づくりや発信をしていかなければならないと考えています。デメリットを解消していく方法として、例えば小中一貫校や統廃合、ICTを駆使した教育などいろいろな選択肢があると思いますので、市としても研究していく必要がございます。

また、小規模校としての存続や小中一貫校、統廃合などいろいろな選択肢があるわけでございますけれども、地域の皆様の意向を十分に踏まえながら、地域の後押しをしていくことが重要であるかと思っております。

小規模化する小中学校の方向性というのは大変難しい問題でございます。各地域の実情にあったやり方があるかと思っておりますので、教育委

員会と一緒に検討していく必要があると考えております。

今後とも皆様の教育行政に対するご支援ご協力をよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

4 閉 会